

第1回 全国高校教育模擬国連大会 + 中3大会

●日時	平成29年8月7日(月)8日(火) 全日
●場所	オリンピック記念青少年総合センター
●議題	「核軍縮」
●参加生徒	中3：2名、高1：1名、高2：5名、高3：2名(計10名)

北は北海道、南は鹿児島と全国から約500名の中高生が集った今夏の模擬国連大会は、日本では最大規模の大会となりました。しかも「高校生の高校生による高校生のための大会」というキャッチフレーズのもと、全国から高校生の実行委員を募り、高校生が自分たちの手で大会を運営しようという初めての試みに挑みました。

本校からは中3から高3まで10名の有志が大使として名乗りを上げ、うち4人が初挑戦でした。多くの生徒が夏の部活の合間をぬってリサーチをし、英語の文献にもあたりながら、苦労して課題を仕上げ、本番当日は晴れやかな表情で迎えることができました。

いざ会議の幕が切って落とされると、本校の中学生大使が果敢に挙手し、グループの形成も試みるなど積極的な動きをしていることが目につきました。今年5月から本校の総合学習「私の研究」で、「模擬国連」に取り組んで来た大使たちだけあって、短い間に明らかな成長の跡が見られました。

模擬国連の様子 part.1



↑ 発言権を得ようと盛んに挙手する本校中学生大使(手前)



↑ 自作の資料を配布し、グループ形成を呼びかける本校大使(中央)



↑ 演説する本校中学生大使



↑ 交渉中の6年大使(中央)



↑ 決議案作成は、提出時刻に間に合わせるため時間との真剣勝負(右二人が本校高3生)



↑ 演説の機会を求めて挙手を続ける、初参加の高2ペア(手前)

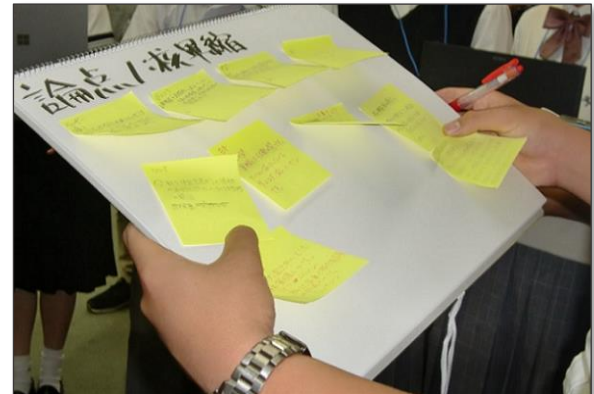
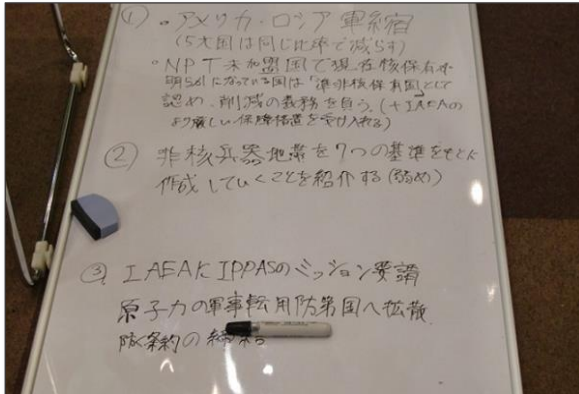
模擬国連の様子 part.2



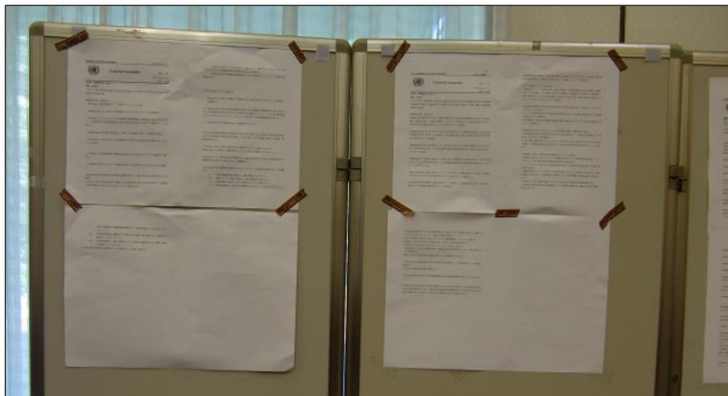
↑ 全体会議：議長団は12人全員女子生徒が務めた。



↑ 初参加の高1生(右)を会議2度目の高2生(左)が支える(手前)



↑ いかに分かりやすく論点を示し、他国の大使を説得するか。各国大使が工夫を凝らす。論点整理のために付箋や白板が登場。



⇐ 会議では、複数のグループが形成され、各グループが「決議案」を作成して行くプロセスが会議の柱となる。苦労してまとまった決議案が、議場に貼り出されたところ。

その後、全体会議での質疑応答を経て、決議案の修正案が出され、最後に決議案は各国大使の投票に付される。その結果、「決議案」が「決議文」となり国際社会に効力を持つものもあれば、廃案になるものも。一人でも多くの大使の賛同を得られるように、最後まで粘り強く交渉することが大使の務め。



⇐ 議事進行も受け付けも、全国から集った高校生実行委員による運営。本校の生徒にも来年度は実行委員に挑戦したいと言う者も。

↓ A 議場：国連旗を囲んで大使と実行委員が集合



「日本語を話すように英語で議論する他校の一般生たち。これこそが世界に通用する本物の英語力です。どうしたら私もそんな力をつけることができるのでしょうか」——本校の中学生大使からの問いかけです。この問には安直な正解などないでしょう。この真摯な問いかけに答えて行くためにも、一人ひとりが持つ成長への渴望をバネに、見えない壁に向かってぶつかってもがいて乗り越えて行くような機会を、生徒と共に作って行きたい——私たちの共通の願いです。中高生が額に汗して考え抜いた2日間、世界は核廃絶に向かってまた一歩前進できたのだと思います。

笑顔こぼれる交流会(1日の終わりに)



↑ 2日にわたる会議を終えて大使 10 人全員集合。充足感と共に会場を後にした。

2日間、それぞれが学んだことには計り知れないものがあったようです。

～生徒アンケートから～

- 自分から他国の大使に自国の主張を伝えないと、何も始まらない。それには勇気を出すことが必要！
- 人の意見に流されず、自分の意見を持つことの大切さを学んだ。
- 最後まで納得できる決議案を作ろうとする粘り強さをもつこと。
- 凄い人たちに出会った。同年代で、深く問題の全体像を考え、解決策をまとめ、提案し、グループを統率する力を持った人たち。刺激になった。
- 国語の語彙力の大切さにも気づいた。

また、今後の生活に活かしていきたいこととしても、「多くの人と壁を作らず話す姿勢」、「熱意を持って仲間と訴える力」等、大会での経験が「成長していきたい未来の自分像」を思い描く上できっかけとなったようです。